千葉大学　第5回文学部講演会 2016

**言語における自然と人間―言語学史より―**

講師**：**一橋大学名誉教授 **田中克彦氏**

[内容]

19世紀後半、言語学は言語の進化が、「人間の意志の及ばないところで、例外

なく貫徹される自然法則」によるものだと宣言し、人文諸科学の先駆として躍り出た。モデルはダーウィンの生物進化論から得た言語の自然有機体観であった。この同じ青年文法学派の中で学問的生を享けたソシュールは、デュルケムの影響によって、「自然」を「社会」にとりかえ、またもや、意志を持たない「話す大衆」を作った。「人間不在の言語学」の起源である。

　いったい、言語はただ一方的に人間に与えられ、人間はただそれを使わされているだけなのか―このような問題を論じてみたい。

日時：**2016年11月17日（木）16：10～17：40**

**（終了後講師を囲んでボジョレ・ヌーボー懇親会）**

場所：**千葉大学西千葉キャンパス・文学部203教室**

**（どなたでも、講演会懇親会歓迎いたします。ご自由にご参加を。）**

**田中克彦氏 主要著訳書・論文**

**[主要著訳書]**

**『ことばと国家』（岩波新書、1981年）  
『言語学とは何か』（岩波新書、1993年）**

**『ことばとは何か―言語学という冒険』（ちくま新書 2004年、講談社学術文庫 2009年）**

**コセリウ『言語変化という問題』（岩波文庫、2014年）  
[主要論文（集）]**

**『言語からみた民族と国家』(岩波書店 1978年、岩波現代文庫 2001年)**

**『法廷にたつ言語』（岩波現代文庫、2002年）**

**「石母田正と『スターリン言語学』」『歴史評論』2016年5月号**

**主催：千葉大学ユーラシア言語文化論講座**

**共催：千葉大学文学部**

**連絡先：菅野憲司（**[**kanno@faculty.chiba-u.jp**](mailto:kanno@faculty.chiba-u.jp)**）**